共二

童蒙先習

上

童蒙先習之目録

第一

よき物
自他互見之章
所不なき物
高く思ひ深く可慮物
受職可有物
中代あしき物

第二

やさしき物
たとやうるる物
きはなき物
あしきもの
うれしき物
薬毒之異
敬賊君之辨
中乃よき物
いたき物
おもしろき物
ねとちくさし物

第二
はゝかり恐るへき部
后として王れな盈及剥
國をとろやかし君を危くすれもの
撫育之章
可笑部
送ろる部
りんらうのなけかる部
あさちうに見ゆる部
和する部
可卑部
叱たる部

第四
極りしき部
よつきりしきなる部
いとおしさ部
うるさき部
まうりしたふ部
にくき部

第五
ねたましき部
極ていやなる部
なまいやなる部
せまくるしき部
いかせたき部
いやなる部
見えさき部
わすれたき部
さめたる部
うらやましき部

第六
うれしき部
くるしき部
腹乃たつ部

第七
可楽物
可秘蔵部
可患部

第八

稍味に因する也
見んるゆるく也
あはれなる也
たゞさるゝ也
人をあなづらまぬ也
あつたむ、穏れ也
第九
おもき也
いさぎよき也
きゝ[illegible]也
すミやかれ也
ふかき也

ちかしき也
見くるしき也
便なき也
人をあなづらるゝ也
あはましたる也
かろき也
きまいろ也
さけとすむ也
明闇
あさき也

大なる也
廣き也
高き也
厚き也
清よき也
やはらかなる物也
ゆるむ也
のぶる也
永き也
あまる也
多き也
滿ちたる也

小き也
せまき也
ひくき也
うすき也
よごさき也
剛なる也
直る也
屈する也
みじかき也
たらぬ也
まれなる也
とぼしるき也

いたつらる地
つましめく地
たてうき地
ゆるやかる地
第十
いろかはれ地
くさふかし地
胸乃痛くるる地
さびしき地
すたれる地
おそろしき地
第十一

たまる地
ちやき地
せいしき地
のどやかる地
いさむ地
須ちらいしれ地
にれはしき地
たりしれ地

まれるく地
細すりて用うき地
成さうてあらぬ地
世をとろく思ひ面根元
勝事ハ不成地
うつして一の宝物
第十二
心もとなさ地
唐察章
もどうき地
刑とうろうて可ならん地
第十二

情さまろくさ地
こんらり操する地
成ちうもろふてたる地
勝て不入地
ふ審ある地
急近をれ書地
親を疏可宮地
やすさこその

さし事　　をとつゝちる事

無禮ちろろ事　　ちろたるき事

あくちるる事　　行はちろしるさき事

菊のもりちろもりぬ事　　まろりちろもり事

求諫章　　克己章

第十四

工まるるぬ事　　工まにそたる事

油りしてはるるぬ事　　定る事

不定事　　真にかのする事

三やうのるとさ事　　可禁事

因於政善之善悪鬼神作威作祟章

第十五

論学之要　　論容忍

論辱之来由　　論彼此厚薄之感

論三之所　　論結怨雖解

論禍福　　論能指其所長

論制於欲心　　論大本末之事

無為論　　論慎言

論為其心待命　　儒行

童蒙先習巻之一

小瀬甫庵道喜居士撰

しつけ

○それ女の家道正しくてこそこゝろくばりのあるべき事おほくと云なりとも趣て女ハ柔こゝろに海ゞせをとゞまる順ふ事をむねとして道の捕よそあるべし。坤順の義を守りて家を篤くせハ久しくハつなまはりおや連枝あるべくずゝひて螽斯の化に及でんるのを。たのしひ取しハ

○父ハ慈なる子ハ孝に止り。君ハ君たる道を能しれハ臣ハに職をまもりつとめ義を求とし。まめ女をのる道を正し。長幼の序乱ずして。朋友ハ間信を宜する合ひハ上下和睦。左道鳴ますもまどとやるありし　世ハ幾年も乱れさ

る物あり亦よく行はれんや

○南面北向き。同しからん

解曰。夫子の南向のまた制法あり。然るを古法を同し。新法を立て私欲を恣（ほしいまゝ）にして。世を乱さとハ何事ぞ

○こゝろの廉（レン）直（チョク）なる

室はこゝろに宜しかる物なるぞ侍る。況政ありて。遠近ともに直からんとや

○衣ハまへわり帷ハむしくの小袖

○理非分明なる宰相有司等

解曰。以下の善悪を見られて擧（アガ）る。凡て此職（ショク）に其人挙る時ハ其次第序を所と以て上下うしむるなし。称此人をハ衆（ス）こゝろこゝろに撰（エラ）ひ。國人に能問て。

挙るに當し。此一見を以。擧るにまよふことなし

○在位の君子義を忘れて利ハ名をけがし國をも乱し天地世をそこなふ。言を飾りて賢愚の用捨其所を得まく欲し國ハいとよし

○堯ハ舜を挙。舜ハ禹を挙。湯ハ伊尹を挙。周文ハ呂望を挙。ともに徳ある其治を以て見。たとひ貴（キ）賤（セン）ありとも云ふ非ニ其人ニ不二の挙ニ於ク其職ニ當す此人非ル人ニ

山海昆（コン）蟲（チウ）まてよくらしむよ

○人の性

有記地

○他人の善をいふ称むむ人

是ハ残よ私欲の浮（ウ）に至ることはなり是ハ皆邪（ジヤ）欲（ヨク）

者不勇者の能を取なり。如此之人権威に在ば、國家之騒乱軍中之能も見くらべ是起る所極て小志なり。今執権にある人をみるに多く此病あり。虞是より過たるや

○貪利忘義人

所財禄をむさぼり得ることを利とし思へり。諸不忘義して而後に取れハ利ハ害に変ずることを

○寵臣のくせとして苞苴に溺れて小人なれとも能取来多くの職禄をあたふ。国ハ此等の人在執権に善人ハ悪人、悪人ハ善人に変じ賢愚二障之患有て主君毀謗に近し。此忠いたつらに嘲に依て君しれたるとたかふ

宜なり。是此毒蟲と称して、人々の忌嫌ふ君なり

○損益利害を辨へざる人ハ是非にわたる極なり。此辨論吟味ある時ハ精味不足して大真果大真果必栄て皆云

互見能之善悪無争物形至善

○夫主君播天下以徳澤則天下之人物咸祝君萬歳之兆矣。衆人播以恩義則化亦以之報之。人勤陰徳則鬼神報之以陽徳矣。子曰、仁者欲達己而達人。孔子曰、聴之清斯濯纓、濁斯濯足矣。自取之也。夫人自侮然後人侮之、家必自毀而後人毀之、國必自伐而後人伐之。太甲曰、天作孽猶可違、自作孽不可活。此之謂也。愚謂、利害損益一として發す。論ずる

まつりごとハあら

用てられ物

○そのつかさたる公正之地位ある人

朱子曰。公者心之正也。正者理之得也。公正今人多連看其實公自是公正自是正矣。夫人求公正所嚴急行之是私意也

○考古今行所の理非得其所而上下無服不慮量大に伸。理学熟しける所司代

○よく物の理を窮め。君非心あらハ宜く諷諫を盡し主君の威名を海外に。德澤を昆蟲までに及ぶを處くにして。其成を所のこすハ。一生虛突之患なく。成其功を人々と奉揚するに至て。ハ公正なる寵臣等

○学術熟し。病知し能入る醫師

○何ごとにてもあまりいとたらさるハ私なく。国の眞和を宏さに守りつとめ。萬成を治る期の手違ひ宜に合ひ。主君をむかへしたるの中に於て果敢決断し。さすか己をのとをせて。君乃治家をあやうし。非んあるたとへ其言行によりきとハ邪分

取所すれ物

○毬打玉のけかまへる　○象を道の代借銭あるい

○武芸をきらひまいけ。弁舌利口をこのむ。欲ふかく理にくらき大臣

○無学の人ハ職禄あつかりまれる事を止も。飽に耶して厚執ハ何にその昔日の主ハこれく

○懐寵尸位（クワイチヨウシヰ）　○恥を知る人　○義（キ）を知りて利をハ思
はさる人　○信ある人ハ安かり
論語にあれハ人にして人の信なきとハ何ぞと云
ハ小車軏（ゲツ）なく大車輗（ゲイ）なくんハ何を以てかゆかんと
文宣王も宣ひしなるかゝる故に粟ありとも食をとす
てよらそ信なき位ハ無道ときハ果（ハテ）して乱なき
も程とそ覚ゆる

藥毒之異

○是非の実を正し政道をのみ宰相有司ハ上下國
家（カ）を安うし之根帯（コンタイ）にて君臣真和之樞紐（スウチウ）也。良藥
此外ありし。毒（キ）をとうとんし利を貴び安居をおもる
宰相有司ハ天下國家を乱し上下を困しむ。

姦佞を傷しむるの大本也。噎國賊也。政蠹也。鴆毒共ならず
なし。また倖（ネイ）近（シン）之國主鴆（チン）毒（トク）を服せぬやハあるべし
國を傾て栄久しきハつゝまじきなり。家良薬を服
するやハあるあるまじ。守文久しうして佳名を中興
頌曰人多く人参（ジン）を服（フク）して気力をまし栄衛（エイヱ）
を調信砒（ヒ）を服してハ命を失ふもの多し
呼（コ）吸極之法聖也。是等ハ殺活（サツクワツ）ハ唯一人しての
ちからにて止る事なし。不知所欲りて程よく宰相（シヤウ）
有司ハ鴆毒に海豚を食ての有信を殺す
さと噎（ムセ）ぐ

高思ひ深く可慮物

○政道之上

敬賊君之辨

○孟子曰

責難於君
陳善閉邪
吾君不能
謂之
恭
敬
賊

是惟人臣之賢不肖をしる所なり不明なるに於國家不治之君職不法也。臣人臣の至てまる
かく云の憂てうの至て憂ちるハ。於國家を久し
かくて。官職の不備より大なるハなし。まく人臣と
て君の非心有るハ諫正し。其君を堯舜に到
さゞんと心腸を碎くハ。恭とする大なる者也。君の邪
心有時に。其の非を正しくまて善道を進め
小人に敵しにてまし。上下の非心を正しくるハ敬君

之極也。臣として父母の臣あまりハ不用のことなりとも。押して解
官せよ。是臣を解官するにハあらそ。其のまゝ位職を解
するなり。又其君行ひ於て君の不能として懐寵して不諫心
ハ賊害君て甚也

受職ひろ地

○仁義礼智信に身をはなれさる人 ○孝忠烈等之小事
○國憲の才有て私意なき人 ○藝能に達せし人
其ハ云とも才藝のことに達し度量せずしハ大職を
授るべからず。此外を以職禄を求めんとするハ君臣共
に盗職也

中のしれ地

○馬と猿 ○唇与歯 ○魚と水 ○小人与小人

○貞観政要曰。君臣相遇有同魚水則海内可以安。愚謂若闇主と佞臣と臣も魚と水とのことき時ん。海内困窮し君亦可以危

○明君与賢臣

中のりたね

○伯夷與叔斉

○たゝ猿　○義をもまする人と利を得て好む人と

○かさとるまへつきみときめく同志

賢君の朝にハ遁臣多かりし暗主の御まへ是のミ多く悪賊名をあつむ斬臣主君危亡之本也

○数寄かたとあそふ同志　○賢人と小人　○直人と曲人

童蒙先習巻之二

小瀬甫菴道喜居士撰

やりたね

○足ひきのみちのきの櫻折そへて薪やおもき春の山人

○むかし文殊の比ほひ兵を老して黒園をたひやくとうの有し時人多あつまりて陽朝せし中に七歳の児乃有しか。夢裡分明帰古郷双親向我問扶桑棄華観樓上一声郷音揺枕猶疑在大唐と作りし是やゆめもあはれに覚ゆるなり

○陸績の懐橘　○精衛乃江河を埋んとするむ。去ハ結人しく人笑其功み吾憐其志多。又ちらうるへし

○舜をたすけて象耕し鳥如芸り楊香か孝行を猛虎も感し亡もおそる

凡て至孝の志をハ天地鬼神皆無不感應人畜

亦然り。明王の世にも依て人を挙措ありしての多し。

噫非ズンバ知ル道ヲ人ニ難シ与ニ此意味のわかれ変を

○鳩に三枝の礼あり

丘濬曰人之禽獣に異なる中国の夷狄に異なるハ其礼有

るを以なりと云り。噫まして人として鳥にだも

○子游か武城の宰として絃歌をきかしむ

○作詩よりか文んハ字法なりとも

いやしき物

○秋のむしのなく声　○高深の女

○士たる者の内外の藝なくしては有まじきとなる

○文学をする人の事ハ積ミて誦すれハ文なり

と云ハ何事のそれや。文学をしてハ遊客楽門の事とも知る

それ文武両道と云ハ文と武とや。武ハ大身を修と称学文也

されハ大学之序に曰。及ンテ其十有五年ニ則自天子之

元子衆子以テ至公卿大夫元士之適子ト与凡民俊秀皆入

大学而教フルニ之以テ窮理修メ己ヲ治ムルノ人ヲ之道ヲとあるや。噫人として

知ル故キ家之四家摂ル真ヲ

けりける

たとへうる物

○言郷の糸　○遊糸の糸撫　○あやめの花露なす

おもしろき物

○まくらの露　○まつり花　○庭のちくさ物

○たつ鴨　○海くりあと　○秋の野

秋ハなまめかしき玉萩女郎花なとさえ見事なれ都人の多し

○召れたる主にかりそめのまじきものゝ事也

しかのまれ物

○もたれしやれ能ある者めきたり　○非礼ハ安あり
○そのまゐる人とすりハ礼なし　又巳く長衒

わ恥し物

○法れ流は奥の蔵と見ゆる　○三四の見乃おかしき
○他国の人に逢て其国の事を粗尋ぬると
國主ハつ○に屢溺こと味を有味有へし路も
に善悪毀譽足なくして走り。羽翼無して飛と
こそ見し。何れも桃李不言下自成蹊とかや

童蒙先習巻之三

小瀬甫庵道喜居士撰

慎しみ恐るき物

○主君に　○理に　○齊戦疾　○天下に
あらそひをつよくしらハ乙是をとゞめ人貴
こゝ如世のせめに及て求之者ハ未有之
○官禄ありと極て盛なし
○易曰天道虧盈而益謙地道変盈而流謙　○鬼神ハ
害盈而福謙人道悪盈而好謙故聖人爲戒必於方
盛之時方盛而慮衰則可以防其滿極而圖其永久
若既衰而後戒則無及矣
○理非を知ぬ者と
古の無學なし闇夜とも理を知ぬ者をと恐されたる心也

かんろくのみけるね

○ねようゆるなく　○主君の人を知る
国守れ人を知るが治世をめでたく佳名を失しれ
ろすが其喜ずん弥不知人家に立て下ろす。活（ケカスツ）
を君も如〻桀紂のたぐひ
○人を信かれ　○鳥れ飛ありぬ
○政道之得失持権衡以較軽重るのなれ
賢哲の人を挙用政道之得失を謀るは量
之禄宝在其中。小人挙用するは利欲を謀る為
数之災害在其中

○放心
其心ハ一身の主たるに何とて不敬於其身

ねもして主のゑあけて数

○執政者の職にていのれ清しけれ
此ひの心の中にたゝの私欲にて出り
○大小の此等国家に心を用もと。主君此不正有時に諫もと。財
利を求んするを八宮たし。嫌ちとも主ハ退て安楽を求め。世
をたのしまんと思ふ者ありとも八眠分
○唐くを言行すと抱もとも主ハ其悪にある／＼行ふ者ハとも於て
君前にし取すると動ハ安すり
如此の者ハ禽獣に同し。君の禄を食ていたづらに座て
及なしとても甘めて国に害をなすもの也。凡て
主君此にある思りん貴族長に或ハ近習耳目之にい
私心をよし正し。私欲をも諸人此に心も不正直。不

直・深智・深謀・度量の廣狭なとを・其品を能分よくゑらみても知べきこと肝要なり。而多くの賢哲の人有るを除て小人等國をあつかれハ小人振威則國必乱

○三略曰　内貪外廉詐誉取名竊公爲恩令上下昏飾躬正顔以獲高官是謂盗端群吏朋黨各進所親招挙姦枉抑挫仁賢背公立私同位相訕是謂乱源強宗聚姦無位而尊威無不震葛藟相連種徳立恩奪在位權侵侮下民國内譁諠臣蔽不言是謂乱根世世能作姦侵盗縣官進退求便委曲弄文以危其君是謂國姦

此等ハ君のためを思はぬ類のことなすとて國家を害し萬民を傷しむる者也。用ゆる身を害せらるゝ君ありみ不可

わきてろま見ゆる地

○他國より使者来て其國守にしく目かれ接待するに道なし

自國のことを語り出し、そしるなど

○武士のたのしみに翫ひなとすること

○主身の律を忘てくますするハ不可

國をあやまり君をあやうくする地

○小人　○佞人　○流説諂克して取寵利人ハ是也

○賢をハ疎して小人をあいする人

粮育之章

○徳者身を潤養を

○當理ニ無私心勤学之人政道

と勝れ付ん、海内の有情皆其恩澤をうく

○伊川曰
動息節宣ハ
飲食衣服ハ
威儀行義ハ
推己ヲ及物ニ
以養
生ヲ
形ヲ
德ヲ
人ヲ

○夫推己ヲ及テ物ニ以養人則公明在其中公明則天下能通人心自樂之下國家卒ニ不亂吁至乎其養

和らぐる物

○藥中ニ國老あり ○人道ニ仁義 ○政道ニ中あり

可尊物

○聖賢の人 ○仁義 ○經 ○善人 ○學に通せし人

○資質之美 ○有德の人 ○立志之堅

可卑物

○利をハさとく義をハ忘る人 ○士たる人序次を乱し將ニ高官人ヲこゝろ有ものに行ふ人をハ

○父母の命をまたず嫁するに及と或ハ夫を求る婦をハ

○儒者の儒をかりし其實のなきをハ

近ならぬ物

○小人ハ職あまく賢人の門戸ハさびしく緩かなるをハ まこと下國家の乱を易おハ此逆しまそ

○直言諫争の人あまた有ても發まて流を掊克の人をハ世以賢と称し寵愛甚し たれぞと

宜哉直言諫争の人ハ君の非心を正し小人を歎し國民を和親するなるゝ宜也是を貴ひ不ル用ハ豈不逆

乎。殊に国に有り職にある人ハ。可（スヘ）寇（アタ）盗攘竊に
此人なぞ使（ム）て居（コ）内（ヲ）に陰逆にありて何

以かる物

○君君たり臣臣たり子子たり兄兄たり弟弟たり民民たらハ
○士ハ学を専にし。釋門ハ其道を深くせんこそ
○忠義を思ふ臣の。先王の道ほとと。国家の長久をせんに。
よるとならハ。何とて。其学をよくせんとならハ取分
まさに忠義を思ひて。其本の道を学ぶべきなり。ことにその
道を不学して忠功を立んと云ハ。釈中にて悦無て。
物を求るなり。いかに忠功を思ふとも門に
多くし。思ふその見を以。政道をするなり。おそるへきハ
起るの極。此上ある人起ことを

童蒙先習巻之四

小瀬甫庵道喜居士撰

高しき物

○物まなしのうかひ　○書籍多く法言を記とり
○その道よりも下に善人あまたの外に能人有とて
主君に取りて。位職を高くせし人ハ取分
公叔文子之臣大夫僎（ノセン）与（ト）文子同升（ノホル）諸公（ニ）子聞（テ）之曰
可（ニ）以為（ス）文矣。洪氏曰。家臣之賤而引（テ）之使（ム）与己並有
三善焉。知（ル）人一也。忘（ル）己二也。事（ル）君三也。此三善ハ知公忠
をも全する学者也と。玩味せし人ハ高くもある将あるを

うとき物

○くらゐなハ　○道ときかりてくるゝ。○人ある物こひするハ
○人民利をうたかふハ不覚也　○初心にて物を申して。益なき人

能くしれぬ物

○そのつゝ貯蓄あるとはあさくはれぬ人
○人ハ子孫と何やかやと語て我が為ばりに過つゝいろ
計ねもんなんて何とらいをましうと思ふは何の事と
たく問ふて子よこも蓄ぢめハ法ゆなしおそらひ
たり学のさまつとも思ひえてしんとおさたまでいとく
○俗ましゑいう真正見解（シンシヤウケンゲ）を用ひて身を尊福よゆたぬる人
○そのうし公正なる人ハ安あり

よくしれたる物

○学をゆるたり　○たしれたかうあまなより
○その利をの語て思ふ人　○両人ハ申りかりしおなし
もれもあ得ずしていりかへたてなりくるみと云けり

と立まつる人ハ安也　○ちやくとうしくる人ハ極ゆり
定まおるよ挙て論せんともうさなまと

いとはしき物

○孔子　○老の法ましく
去ハ美斛曰文王れ老を離るへとゆくゝ。いろんな是よ悔
せ何ん申と云く定よ老ナまて八友ナなしとくや。問
友八多くあるよこせかしこまりてん合せてかゝらしく
種たんず。苦れ人の中よ立酒しつまいハあまりかん
きん作りまよして。いろ斗まりてあまとしそゝん
つれる名まと
○ひとりむこ　○驕のうか　○いまし苦きるる君の。
賢哲の人りうね國れ政を任せ。上下萬民家宿寺其求

をいかやすくおさめ難しきをも言ふハ形容
嗚呼君ハ己下を愛しく給ひし始て覚へ給ふ
○ゆうきーのことはにてなけきたる也

にくき物

○長田（ヲサダ）の庄司。朝倉式部大輔。明智日向等。
○佞人とハいつはりたくらひ。主の明をおほひ。政を乱るハ一人
叢蘭欲茂秋風敗之王者欲明讒佞蔽之
○時めく門をのみ出入し。へつらふ人をハ去人
○邪利に溺て正理を乱し。多ハ世の費になる事をする人
○[illegible]同人ハ交なり
人の物同利。又ハ佞哉方なることをひきつゐのやりて遂し
あり主君の恩禄を以義子等をも養ひ給ふ厚恩

をハ勤なんとて筆て思ふも。判代安等に付ても。其利を
ねたむもあり。噫人非人とも後人に云ふことし。貪欲に溺て
あるなりや。世間にも多く見ゆ
○既足るも不精唯財利する事に。さとれる者等
○国のまもりと成り。こゝろすなほに付て巷道にさけぶ。
窮民ハ理をとハ非にとめ。其非をとハ理にするとも人
噫国家此憂無ます。無事のまれなりの明君此代
まつるに非とも。唯あまりに盛なりしむかしのこと。高君
の朝に賢人ありとも非とも。あまりに有と云たる。盛衰
なりしかるのこ。是唯人を挙ることに。清撰たる
まじきなり
○好色におぼるゝ人　○禄長言　○妖怪に溺る人

○思ふ衣の犬　○青侍のうたまかりつ。侍ハまゐ
○悪口あらし。国をも乱し或餓中をぞ云ハくる人
○子貢曰君子亦有悪乎。子曰有悪。悪称人之悪者。
悪居下流而訕上者。悪勇而無礼者。悪果敢而窒者
訕謗毀也。窒不通也。称人悪則無仁厚之意。下訕上則
無忠敬之心。勇無礼則為乱。果而窒則妄作。故夫子悪之
曰。賜也亦有悪乎。悪徼以為知者。悪不孫以為勇者。
悪訐以為直者
悪徼以下子貢之言也。徼伺察也。訐謂攻発人之
陰私。○楊氏曰仁者無不愛。則君子若無悪矣。子貢
之有是心也。故問焉以質其是非。○侯氏曰聖賢
之所悪如此。所謂唯仁者能悪人也

童蒙先習巻之五

小瀬甫庵道喜居士撰

孫くり起抱

○梅ハ無名と梅此花ハ白なるも柳の枝ハ河つせそしト
梅ハ白ひを宗とし。木立形ハまとふかひらず。梅ハ
色を宗として白もなし。柳ハ色ありて枝をこそとも
あらわれ又にほひもそれぞれしかる。さのうとも乃
まさしくあたらしいかゝ
○福禄
しあはせハ是をねがふハ何ぞん。唯善人ハ必ず孫々に及ふ
非ま致也。其の興亡もあらまじそ
○数ハ年々其の乱をかはる歴ずま
夏四百六十余年。商六百二十余年。周八百六十

余歳ゟ。晋朝にハ泯儀帝より今上帝まで二十七代年紀
○三百四十八年ゟ。刑措き不用して天下をおさめゟ
なりしとかや。此比ハ何を以得らんくんと心に煉（ね）り立
まとゝ貴し。賢哲の人に問て。中路を旅しなれ
此頃すとゝ。奶くかしまらん
○天下に学校。又国々にまで有て。儒学行れ。国々を
たやうに。民おさまれりに
○末儒学者の人迄ハ大儒立絶ありしを。当学にも
のこり人迄立ハなしとも国をおさやゐもなし所ん。国当
ハ必異端に学を禁し。みな／＼林西坡異端之学
則是治之在其中
○及第之法行る事中に

学の進るの及第にきてハなし。学進むの先王之法
興らん。先王之法たこなん当治めきるらん

いやな抱

○代官等をおのくろまやとの利を施てするとハ
色々と之法く此人多し。嘘いとにくし
○とれあく。邊賀の中に無をと法くるるん霧なく。非礼
のうして。剝くるりと。道具に溺まし。其思におさ
らあ人を取中。高職に任し。君を危くするハ
○非なる事り
非路なりん。寧職をハ授させもし。礼るに当ての
ら法なるべと。或貴賤。或其人にハあり。孫とゝ之
くつく行りしなと。或媚にめて。愛に溺まし或

衒直進利すると云は、わたくしなる人ハ。おのれに奉ることなく。擾乱しゆへに。有に依て。國をも乱し其身をもほろぼすもの多あり。嗚呼不知其職に奉る人と法撰し給ふねハ。一己罪甚深に蒙り。無冥加なるぞ。えらむべし。國の亡るとハ法撰しがたく。根に奉る時ハ。ついにそのほかの人民まで禽獣のごとくなりむに

○他の君をバ。云さかひろ孫に。自ら恐をバ云ふもせんとする小人等　○老女のつんき　○大風　○邪な偽人

○狐者ハ下にらんて。隣をかさひたる悪き物と云。粗歌の題にて。秋の歌で。其場に作られし。喜撰法師ハ。雲別正光と云ひし歌人也

○直なる紀國其のときひのことく。疾癒偽人と書ても悪也

極めて悪き物

○病　○盗賊　○小人

夫病ハ極めて悪き物とハ云ども。國苦甚りの一人より行る。盗賊亦能り。唯小人朝に在てとゞめがたき。或ハ辛き職に任ずる公天下國家の人物皆苦しむ。呼其事至て餘あり。進でも取余あり。智能技藝全体。才足なる。無徳則小人也。挙世賢人小人と多知せども。多くハ才藝に逢せし者をば賢と称し用ゆ。是乱根也。才者聰察彊毅知能技藝也。徳者正直中和謙譲也。才有て無徳をば小人とし。徳才に勝をば賢人とせり。徳者得也。萬物之性を得るを云。凡て用小人則天下國家不亂と云ことなし。用賢人は天下國家太平

なりと云るのみ也。又周公旦ハ徳才芸ニ全備せし人なり。此人宰相ニ任ニ在て周之治世永くしかるの見。桀紂始皇も。才ハ足れる人也しかとも徳なかりしに依て。天下國家ニ身をうしなひし也。吾朝ニして関白秀次卿。才藝ハ有て且聡明なりしか共是も徳なく。理非と云事ハ露しらず。異端の学を好みしに依り。言事に及ぶとして。あまつさへ天下乃身を滅亡せしなり。古今眼前なる繹節可見。吁太小あるも此害多けれ。去ハ孔子曰。如有周公之才之美。使驕且吝。其餘不足観也已と。才之美ハ謂智能技藝之美。驕ハ矜夸。吝ハ鄙嗇也。朱子曰。誇人所無是驕。挟己所有是吝也。聖人才藝の多

る周公ニ並ぶハなし。此人の才と云共。驕且吝なれバ。其餘ハ不足のことと宣し。意味甚長ならとや。況其家ニて才を挙用んとや

見たき物

○聖人の出る時代　○目きゝ物○志を役ニ入ら名見

○我身の悪

いゝ身の悪をしらんと希人ハ賢哲也。多ハ今をゆるさぬ事と。自慢するあり

○名所ハ聞しにもと云ふらし。詩歌ニ書語其景ハうつりかハる見し人の。様才や小詩歌ニ人同ハ何とこゝろんとのたまなし

学ニ尽やなき物

○私活のしころに雑の事

○下手れたんき　○家勢の雑談

小人のとためくちよりして八気に内と唯白も

うくわりしぬ谷くたのまゝつゐるを宜しくすまし

たわむれ詞まことと浅折に云ひつるハころとらん云

てふやうなる事をてさすらうへことをせずまぬ

ねしたね物

○癖　○あり

彼袖れ汚つかり房憩れ鱗あり人皆いとふといと

いて掛（ホツ）滌（テキ）まし人欲のあるに至りてハ掛ひ掃まし唯

あハ至極く〳〵し。國家れ乱逆ハ此垢穢より起るをも

○儒学の三昧あり　僧

まのあたり安楽浣葬なれどもおちわすれしハ真

儒の学に徹入せざるとも老荘に境をわかちて政是

の是に（ハ成）りぬかりなん世ハ大明の七主英宗復

位有て投（ツキ）豆れ正統二年に合はせ二十以上僧徒皆還（カ）

俗と云ふ是より（上）云下禁に禁ありしとかや

○款城　○うまなれ君ハ行なり

せまかし物

○燈山　○当世はやる是里　○高。草。雅。寿。

ときまつるすもの広の市に。同毘拜を祭るすも

○西鐡にあらん人と國にせめて一人つまりあり

世ほこ人多ハ二人　○儒学用ひ（ヒ）有なれ

○宮職ニ打布に　○都さと船のつくかいして。

萬〻制法も太昧の座ゆゑ　○金銀たんと持し。
うゑは山しぞは水しある庭を作らず。眞正紀座を

とあゝし紀物

○あひ口の客人
是ハ獨体にひとし。唯獨体の心とハ主人し。子貢も
ひろく言をきせんと云り

○口よつしたるの字好ら　○ゆづ主の大路
○勅作の茶葉なる藁代仙人　○あつたくに入月
○武勇智謀に通せし人。殊に理学に熟せし人乃
其國主の非をよふく諫まとも用ひ給ハ
とて。立去ハ取分

いあせ〻し紀物

○謙家の係人　○名好こある人　○りとくしたし人
○君端代學よかゝり主に付て高婢ちる人ハ空なる

うや海し紀物

○二三友ニ言葉かりせしよつ人のたつ物らもし入ら
○理よあらして無私なる人　○位
まよ位と給ふなりんハしやましかりもし。無給にて位
まあつハ唯位をしるとめつや
○かとくもなしくそのゑち座ゟる人
○徳りの完実山のしよくなつ人ハ取分
○二釈の売よ取つきてつゝある人

童蒙先習巻之六

小瀬甫庵道喜居士撰

うまれたち

○人生まれて静　○あやまちとハ人の告知らる

改過遷善之物何て樂ミか然ニ去ハ子路ハ人に告る

ゝ以過を喜ひとなや是以子路ハ百世の師たり世

人ハ其善を告る時ハ悦ひ過を告る時ハ不喜

○謙とハへりくたりとを向ふ人よとの文

○正誠にして詩儒学ある人の自ら從來服から

哀公問曰何為則民服孔子對曰舉直錯諸枉則民

服舉枉錯諸直則民不服。程子曰舉錯得義則

人心服ス

○不平得り物ハとうちまに何かすなとあり　お

こともなりはなんせん

てらゐ立抱

○碁将碁の師云　○小人は威勢ある人ハ頼分

○かこれハ身をたのしまんとハ君の非心を諫めんとせしは

君をいさめしねるにて能用ゐ給んとせしとおもく

思合てさいうじれよこの云ふり

○紕繆（ヒヒウ）を以（モツテ）正理を執攪（ニッテン）の人にて云るとひろまると

いやしき人をまとはす人也。此人執権よあるときハ国

を乱（ミダ）て身を亡すもの也。是によって君ハ宜しく之手

○亂にて賢相にて能取りつくるを逆賊の信に

亡国の賊乃くとくも輪んとも尚よく云きてらハ讒に

来ん賢不肖はしてしや君の中よしの心を及びをハ苦労せんため

く逆するものをいへるは権勢微（ビ）にしてさまよふ

まきなへと口擽

○剛強者たとへ衆をこえてかつて大（カウ）謀を謀り果敢

損益ものみを積しなれは君ハ能くま述昇色ておやおも

いへん足がよし此人時なりぬれはおのひとくおしれ

よりあとしれ六さろを気乃昼ニ気やらんと云お

しなれハ　○花ちる是風　○甚位職を勤めさ衫

かなし花抱

○つるまとの人之座　○待まひの鶴乃寿

○國為れ無道にして直言諫論を云ものを若こく

いふめふ人は高位高と撲をよへハ

○高気れ宮の南都の師まあひみの為

○理不盡なる者ハ人の入部しけれハ
○理ハ明らけく果なる忠に代。君の用ひられまうに
成られすや。他邦に赴くる
忠の字なおりよくち。未萌を計て云けれハ。忠に
云ハ滅亡のちらへくあるんよそ。身を引。是をこそ
匪躬の故すらハ。ひとへに云し。云ハ三界日晰定
則ハ國撥亦國卒

童蒙先習巻之七

小瀬甫菴道喜居士撰

○道

夫道とハ樂ハあり。志道を攝宰をもつて滅亡の道
路の字をはこひ下もなく。斯ハいとおそれし。又
いと孫が童蒙の眼まも不成るゆ。唯隠より始て。
明君へと誘引しおはんまハ。これをはんや。中庸曰
天命之謂性。率性之謂道。修道之謂教。其本皆出
乎天而實不外於我也。朱子曰。性ハ是體。道ハ是用。蓋天
命之性。仁義礼智而已。道也者。不可須臾離也。可離
非道也。呂氏曰。但尊以道不及離道。是道の字と。
中の字とれ意味可黙識。堯曰咨爾舜天之暦数

在爾躬允執其中四海困窮天祿永終と宣ひし
も無過無不及して政要を示しおいたまへり今世
有國家而中を取ものは唯そのまゝとそのゝ身命を
塗炭におとし入のミ是し直言諫争れ臣と用ね
かゝらず西山真氏曰君子樂得其道小人樂得其欲以
道制欲則樂而不亂以欲忘道則惑而不樂樂之道
者根於天地之德而長於萬物也無其精粗內外
親疎之間而次序合宜長成乎故充之身則語默
お處動容周旋不思而得不勉而中一身之美也施
之於家則閨門有章宮庭有度不言而化不肅而
成一家之美也達之於國則朝廷正而百官治一國之
美也舉而措之天下則黎民雍而萬邦和天下之
美也得道之小者其美則偏得道之大者其美
以之処己則順而祥以之治人則愛而公以之養
則和而平以之爲天下國家則無所處而不當如斯
なる樂しみハ道の外にハ
○君たる君は好て聖学を法とし無礼非をとゞめ給ん事
所しのあり
○非なる法ハ漸うすく成れハ
病は非気去るがごとし非法を撥擇せんにハ必乱よ
り成侍るとも君のるなり民ハ子のなし万代のくにおさまり
せなうたん非法をあつむし為く出なうんハ樂は
も存る気あり
○ゐを思ひ立ものもあらちる者をとやらハ安

かゝれは。ト益のよれ

可憂物

○天下国家数百年理学行はざるに。仁義乱れたり。時上下共憂此上一ある人。欲解此患問於真儒求理学けれは。とかく解せんとす。求害れ去気あり。おほかたしらくならん

○人をと知る事の不明なる事と夫國主不知人則其憂海内に溢。其故はいかんとなれは。宰相職不得其人諸官皆所を失し。上下憂へ。國内恨ミ多くして。山林河海こ弥不安。而昆蟲までに困しむ。此職不得其賢人威を失。小人威をとるかくすれは。遂に其君を危ぶ。故に異朝には法擇正。学は法擇正人あれは。宰相職しるは法擇する人あれはなし。夫呉朝に師傅保之三職に挙る人をたて。國に無其人則闕。吾朝にも太政大臣を即闕之官とし。堯時擧舜爲攝政。殷湯以伊尹爲阿衡。周成王は以周公旦行政。是皆法擇あるに依て。治世いとめでたし。佳名無窮。是人を知るの明なる極如此。昔ハ樊遅問知。孔夫子知人と答のみ。塞有りしかりし答也。朱子曰。若宰相不能知人則用捨之間。不能進賢退不肖。若學者不能知人則処朋友之間。不能辨益友損友。故王公より士庶人に至るまで不知人あるべからざるなり

○士ハ我身と云物に惑せられて武の道をも踈に
なし侍るにや。されバ人ハとも求置ても。君の恩禄へも歎
謝する稀なるをへても甚也。甚るへても甚果るゝしるそ
詩曰世人多く樂所たらぬかわりあり。小人ハ独樂む。君
子ハ与衆樂。唯君子ハ独樂にあらさらんや。呂氏春秋曰
陰陽之和不長一類甘雨時雨不私一物萬民之主
不阿一人とかや

○心の主とゆるさるゝ欲をまよる所やめて身あるら
しめらるく
程子曰学道ハ唯放心を求るのミにありと

○位の高からぬと不憂唯徳のたらぬと
丈夫丈夫ハ己にある物とうけて不疑によく如くヲ

○賢人のことしくハ
善賢者之人を或搆死せバ此学の事にしれと云事
紀の有言くもしをめ凡我するや君くしとぞよあるん
つくひの子ろ女

一の妙意抄

○志を学ぶ時も道の小性の信ある身きたる理にる
てさまとんわつらうして仁も身もさてすらはうるに
抽るまでハ是ハ乱ぞ

○遠国へまかりなとよてつかはされ者甚前の訛に海外
狸感せられて主君すでの人のかくかへれハ

○耳目聰明にして剛であるへ又理学に熟せし人ハ
くれことに人を助ハ天の賜に賢哲の人と與なる

よくく賓客のごとく信ずべし
○駑馬れおりひハ不ちうれ　○不足ちうれ刀の御きれ
○勇士のふ字好ゑなろハ不分○拙者の故ゟ
○萬手まかりなと能して。財宝も捐足つゝ。賢ちれ
行あるみへん日なすと作りて。よれ諫志らくと云人をハ
○諫臣　○直言之臣
或書曰。朝有諫臣。髪猶有櫛。○尚書曰。木従縄
正。君従諫則聖。○説苑曰。國之興也。天遺賢人与極
諫之士。國之亡也。天與亂人与善諛者。故
与國主ゝる上。諫臣をハ黄金其玉をと築れ為
罷りても。形あきたゝるとも覚ゆる
○乏下國家のくあ危ぶまんをして。ハ國窮をすとも世

もして乏下之泰否を無止傑り人をハ
しるべ世を用ゆるハ利楽或好色等をすゝめ
なとすゝかハ衣服貴く栖居を清くしと専しまう
才藝道し媚諛者かなり。其義を秘に行ハ利
のうろとすゝむるハ害を進るなり。君のくゝあ危ぶまよ
ふ行ぬ者ハ財宝をいうすもせよ。唯仁を以て身力を
盡くすべし人れせ。孔子曰士志於道而恥悪衣悪食者ハ
未足與議也。程子曰志於道而心役乎外何足與議
也。葉氏曰心者一身之主。役於物則害於道篤於志
則忘於物矣。天理人欲消長之機。聖人之所以
深警。而学者之所以當知察也。其顔子一簞ノ食。
一瓢飲。不改其楽。此不恥悪衣食子路衣敝縕袍與

衣裾銘者宜不紅者。此是不紅衣也。あり学ま秘記
すら拘泥其所を失肩衝なとの茶入虚堂一
休等の墨迹をいかんと云ふ用ひならして。
天下国家を治むる家を治むる学者の人と秘蔵せらる
ハ何ぞや。只是君子不孝父母ニ不孝行して。其
身をも亡すなり

童蒙先習巻之八　小瀬甫庵道喜居士撰

得味ハ同する也

○時宜たのみちらまさりして。純宗来れハうく
如ぷりこゆるまハ　○富洋溢すれとも旅さぬも
○すまき　○母し使えて君ハ百ふ

ちうしき也

○偽のあらハるゝ
無所簡擇ハ男子ならぬに秩寛も悉皆もとく
添力。丈夫實理よあらぬハ。皆偽や
○人姿のけう　○親の姿まてのこゝろ
○朋友たちの疎ま去りかゝて。君代法姿のまゝ
○国守代人を知られ　○近臣寵臣代知欲ハ羅

〇ツまの々思ふろ此何そとて人の心てさとしおつるゝハ

見事なるや

〇花のさかり　孫子吉祥　〇伊尹　傅説　太公望
東園公　綺里季　夏黄公　甪里先生　張良　蕭何
韓信ることの功（かう）にかへし此等は君宗なりと此の手
まける
此茶々異後に追ひ摂要ら威あるの役を
在て天下國家を行ふて見事なる唐
世からし風しつへきし

ミるしきや

〇度量八千重に何とおする累ハ小さもさへに云へし
此人宰相の役に在てきびしくハ取る

甚器のまゝるぬ宰相の此見ら此のところ主君の
人をそしまいて媚に溺て宰ためら取ら
〇女の人にあやしくからみくほれ此あるへたる
〇まわかの心のありハ

わすれたるや

〇新鳴も　〇あまたしくしたる左に
〇ちん忠文大祥回も剃をつきしるとも象かそれまへ
〇清經るしも
〇国主此人をも知て官職を授よするハ字や

ほうきや

〇家僧の中に一の人の行しく
〇大僧を乱す莊老異端の学此中にて偏る精力

さぐりもとめて聖經賢傳の旨をあきらめむ
とするも

ちいさき人物

○鳥　○小兒　○庸君ハ小人に
三好修理大夫ハ松永弾正久秀にたらされ其身害
に滅ぶ。関白秀次ハ木村常陸介にそゝのかされ身を
そこなふ。かくのごとく淺ましき例しあり。古今に數多
し

叶燈童うあるめ

位職に小人在てときめく
時ハ國家危くなれり　○汗見心そく
○婦后　○童賣下の死まも　○町めく人の后ハなま賤
多く前つくろひあれはつるや衣乃そ
せ人るまつ。身代害に淪る人るふ甘つり

ただ唯邪人の鑑をとらんとて噓人非人をなく
なかし

人にあなづらるゝ物

○無學の僧　○愚かなる人　○徳才無きる人

人に憎まるゝ物

○學者の窮人　○人咬犬　○下位にハあまると首領の人
國無道にて富且貴ハ恥也とぞありをいひそろ

あさましき物

○一數多に貧者の窮人　○王侯大名の悪
○臣として君を弑こ謀反をたくむるなど
○不孝なる子
此人ハ法にめてゝ人倫なるらん

○政をあきらかなる國とハ君みづから其事をあきらかに有年

をむさぼりくるしむる事なきハ

あきらかに國を治

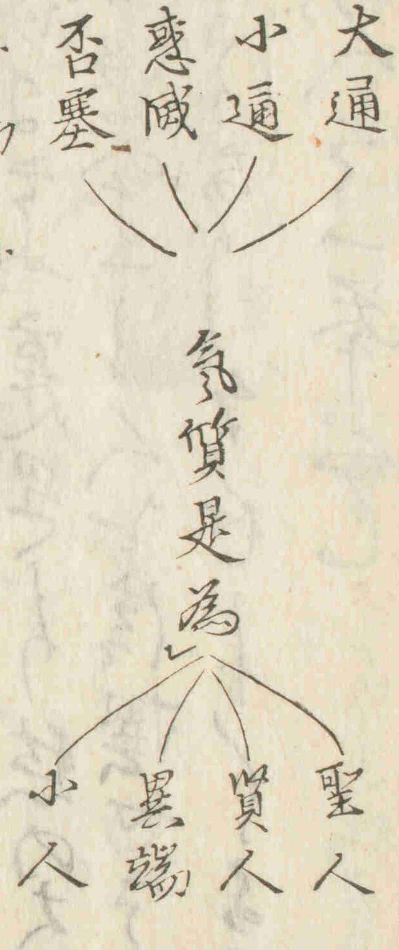
知人擇法

○國之不正

若至寶なるものゝ何ものをいふと云んに人を知るを至寶なりとハいふべし。夫惟天下國家を有て德名万代にかゝやかしく。守文いと久しくたゞ百官其所を得ゝ万民安んするも上下和合してこゝに帰なれば皆よく人を知くして官職に任ずる一擧にあり。官職に其人を任ずるにハ公爵歟まてにも其撰ぶおもねくのごとくにして有る一心の好否其君の意に

をも守る事にあたりかね。去ハ孔門之弟子知識問ふまうす人を知とのをゝ答給ふ。是百發百中たる至要と諸先生も注釋しき。然るに何楚彼注國家之仕置すると何ゆゑのごとく知事乃護法すく。唯こひ重つらふ小人等をも君子ならく取る。國舞之者利口なる者國方藝に其せし者ども賢人とそ称し擧職任をけるし。國体るやまし。武をもって惑しむ。四胞之民なか君臣倶に亡ぶ。寔是より德之大なるハなし。官職に任擧する人を清擇せさるハひとへに君恩をしらさるなりと知るせし。人を擧舉るハ其知るゝ人にて一擧にあり

○於大道



然幽爲大覡爲小矣全非爭智之明則難識明焉

○於中庸
合
離
之則爲
君子
小人

合於中庸則萬事治矣反之則患皆亂矣

○或曰
非禮自爲之　愚不肖
知禮不爲之　小人
知礼而爲之　賢人
自不遠於禮　聖人

○大小人分知之図

大人	正誠明哲之心在天下國家而政綱無虛實	發君之威名節用以安民爲私不欲利樂	純粹如精金溫潤如良玉成天下治綱	直順逆義悪終帰正成功救世之弊者	忘己以思天下之平治教民如己之飢
小人	訓詁詞章學見俱達强禦掊克望君寵	六藝俊才偏足好威名達利樂	愽学以取高名口給以快主君致怨謗之無極	。責人至厚恕己至薄伐智能功名	才藝實德行虛先私仇後国家急卒欲賞於己

大人ハ義によりて物を心とせず。理義を貴びて天下國家の治る事を云人と思ふより外無し。小人ハ明てもくれても專ら物を取ひ利を貴び家を富しめて天下國家を顧まずして君を蔑くしょう下二隔のまを嘆

○温公曰。智伯之亡也才勝德也。夫才與德異也世俗莫之能辯通謂之賢此其所以失人也

夫聰察彊毅之謂才正直中和之謂德才者德之資也德者才之師也

是故才德兼全謂之聖人才德兼亡謂之愚人德勝才謂之君子才勝德謂之小人

凡取人之術苟不得聖人君子而與之與其得小人不若得愚人何則君子挾才以為善小人挾才以為惡挾才以為善者善無不至矣挾才以為惡者惡亦無不至矣愚者雖欲為不善智不能周力不能勝譬之乳狗搏人釋義（搏附也）人得而制之小人智足以遂其姦勇足以決其暴是虎而翼者也其為害豈不多哉自古昔以來國之亂臣家之敗子才有餘而德不足以至於顛覆者多矣豈特智伯哉

夫惟近来古法去人の身を忘し・諸侯大夫も解官よ私して・國王之天下を先とせず・皆寧私するの等之高職を求と存ず法を犯し弱ぞて・擇よ任挙

すゝの二失は在のこ

○李氏十等之図

善　重誠一　軽敬二

悪　軽偽三　重肆四

至清　誠一　誠一　以断為十分清粋而為聖人

至粋　誠一　敬二　以断為九分清粋而為大賢

清粋多　敬二　敬二　以断為八分清粋而為賢人

濁駁少　誠一　偽三　以断為七分清粋而為善人

朱子曰善人資質好底人自然無悪然不践跡亦不入於室矣

以上純善為上等

半清濁　誠一　肆四　以断為清而不粋為六分清粋

半粋駁　敬二　偽三　以断為粋而不清為五分清粋

以上為中等

清粋少　敬二　肆四　以断為四分清粋而為衆人

朱子曰悪重善軽則特為不学之衆帰於不入室

濁駁多　偽三　偽四　以断為七分濁駁而為不肖

至駁　偽三　肆四　以断為八分濁駁而為愚人

至濁　肆四　肆四　以断為九分濁駁而為下愚

以上純悪為下等

110X
165
2